

## 集団におけるよりよいかかわり合いの構想

— 係活動を基に、特別活動において育てたい力の明確化を図る —

### 1. 今までの取り組み

3年前、本学校園では、特別活動でめざす資質や能力（特別活動指導資料）を参考にして、次のような『6つの力』を定義した。この力は知識や経験の上に積み重なっていくものであり、スパイラル的に伸びていくものである。

イメージ力	… 活動内容、手順、見通しをもって企画や計画ができる。
実践力	… 計画に沿って活動し、成し遂げることができる。
創造力	… 自分なりの考えをもち、新しいものをつくりあげることができる。
責任力	… 自分の仕事をやり遂げることができる。
受容力	… 友だちの考えやよさに気づき、認めることができる。
仲間力	… 友だちと一緒に活動することに喜びを感じることができる。

そして昨年度、その力の中でも、特に重視する力として『受容力』『仲間力』をとりあげ、その力の育成に関わる特別活動を附属学校園で行っている活動から整理しようと考えた。その流れを受け、今年度特別活動における研究の具体的な取り組みとして、次のことを検討することにした。

学級、学年、学校全体といった集団で、どんな活動をし、どのように仲間とかかわり、どんな力を育成できるかを整理し、学齢に応じて重点をおいて指導する内容を見つけたり適切な活動を設定し直したりするなどの検討をする。

特別活動は、自分が所属する集団において、自治的・自発的活動を繰り返して行うなかで、仲間や相手を思いやりながら、集団の一員としての役割を果たしていくことを学ぶ大切な教育活動である。

自分の所属する集団は、発達段階に応じて少しずつ変化していく。ただ、その中で基盤となっているのは子どもたちどうしで形成された集団だと考える。発達段階により集団の構成人員や質的なものは当然変化する。しかし、どの段階における集団においても自治的・自発的活動が中心となるべきである。教師はそんな集団が子どもたちのよりよい育ちにつながるよう支援していく必要がある。

そこで、初等部前期ブロック・初等部後期ブロック、中等部ブロックにおけるよりよい集団の活動とはどのような活動なのかを、『仲間とかかわり』という言葉キーワードに明らかにできたらと考える。それが明らかになると、さらにその活動を充実させるためにはどうしたらよいか、ブロックをつなげて考えることで明確になるのではないかと考える。これは、各ブロックをよりよくつなぐ特別活動における集団活動のあり方となる。

しかし、特別活動は多岐にわたるため、今年度は幼稚園から中学3年まで共通する係活動にしばって整理することから始めることにした。その視点を次に示す。

「学級活動」における係活動において、学級の集団で、どんな活動をし、どのように仲間とかかわり、どんな力を育成できるかを整理し、学齢に応じて重点をおいて指導する内容を見つけたり適切な活動を設定し直したりするなどの検討をする。

今ある姿を整理していく一方で、附属学校園の最終段階となる中学3年に特別活動（特に「学級活動」）を通してどのような姿を願うかも大切な視点として、中学校学習指導要領に示された特別活動の目標や学級活動の目標を基に話し合いまとめた。それを次に示す。

友だちや家族、社会の方々など誰に対しても適切に関わり合おうとする望ましい人間関係を形成し、一人一人が集団の一員として学級や所属学校園、さらに附属学校園そして社会までも広げてよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決するために話し合ったり、能動的なアイデアを出し合ったりしようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度が育っている。

附属学校園には校区がなく、地域とのかかわりがもちにくい面がある。そこで、友だちや家族という集団を基に、そこで培われた望ましい人間関係を学級から学年、そしてそれぞれの所属する幼稚園・小学校・中学校で十分に高め合い、附属学校園全体へ、さらに社会へと広がることを願う。

### 2. 今年度整理したこと

まず、係活動において、どんな活動をしているか特別活動の領域に所属する教員が初等部前期ブロッ

ク、初等部後期ブロック、中等部ブロックに分かれて話し合った。具体的な活動が見えた後、その活動における仲間とのかかわりやその活動においてどんな力が育っているのかを洗い出した。そして、各ブロックで話し合ったことをつなげることで、附属学校園として大切にしたい活動や仲間とのかかわり、その中で育成すべき力を整理した。すると、係活動において子どもたちに育成したい力を中心に大切にすべきことが大きく分けると3つになることが見えてきた。

1つ目は、自尊感情を基盤におき、仲間を思いやる心が徐々に生まれ、仲間とともに歩んでいこうとするとときに大切になる仲間力や受容力である。

2つ目は、創意工夫しようとする姿を大切に、それを高めていくことから育つ創造力である。この力は、実践することでより高まっていく。その過程では、自分たちの姿や活動場面をイメージしながら常に取り組む。つまりイメージする力も育まれることになる。

3つ目は、責任感を感じて物事に取り組む姿を尊重していくことで、徐々に実際に自分の係の仕事をやり遂げるという責任を果たすことができる力がついてくる。つまり、責任力として子どもたちにしっかり身につくと考える。

これらを具体的な活動に対応させ、整理した表を169～170ページに示す。

### 3. 今年度見えてきたこと

係活動では、特別活動でつきたい『6つの力』の中でも重点をおいて大切に育てていく『力』とその関わりが見えてきた。『6つの力』はそれぞれ独立しているのではなく、密接にかかわり合っている。その中でも、『受容力』『仲間力』とのかかわり、『創造力』『実践力』『イメージ力』のかかわりは、学級活動の係活動においてはより深いものとなっている。また、『責任力』を育てるためには、その力をすぐに求めるのではなく、責任感を初等部前期の頃から感じさせ、それが実際に責任ある行動ができる『力』となって子どもたちに身につけていくと考える。

係活動での仲間とのかかわりについては、初等部前期ブロックでは、子どものしたいことをやるという、自己表現力に重点をおく活動から、少しずつ責任感を感じさせていく活動へと広げる。一人1役をこの時期に行うのは、自分の係の仕事が学級全体に影響していることを体験させ、責任感を感じさせていくのに大切なことだと考える。それが、初等部後期ブロックに向けて、2～3人で構成した係を作り、お互いに協力したり、補い合ったりして学級を運営していく中で、責任ある行動をとることが大切なことを実感していく。また、このころから『お楽しみ係』とか『学級新聞係』など学級をよりよくしようとする係を作り始める。この係は、自分たちで自発的に工夫しようとする姿を生むものであり、『創造力』や『実践力』、『イメージ力』を育てることへつながる。仲間と意見を出し合い、協力しながらよりよいものを求めていく姿は、特別活動において大切な姿となる。これが、中等部で班を母体として、仲間と共に協力しながら実践していく力へとつながる。中等部の中でも中学生は、新しい仲間との出会いでもあり、子どもたちのかかわりも不安定になったり逆に新鮮みを感じ充実したりもする。このようによりかかわり方が複雑になることも念頭におき、学級の班をまず基盤におき、仲間意識を十分に培い、より望ましい人間関係を形成していくことを意識して取り組んでいる。

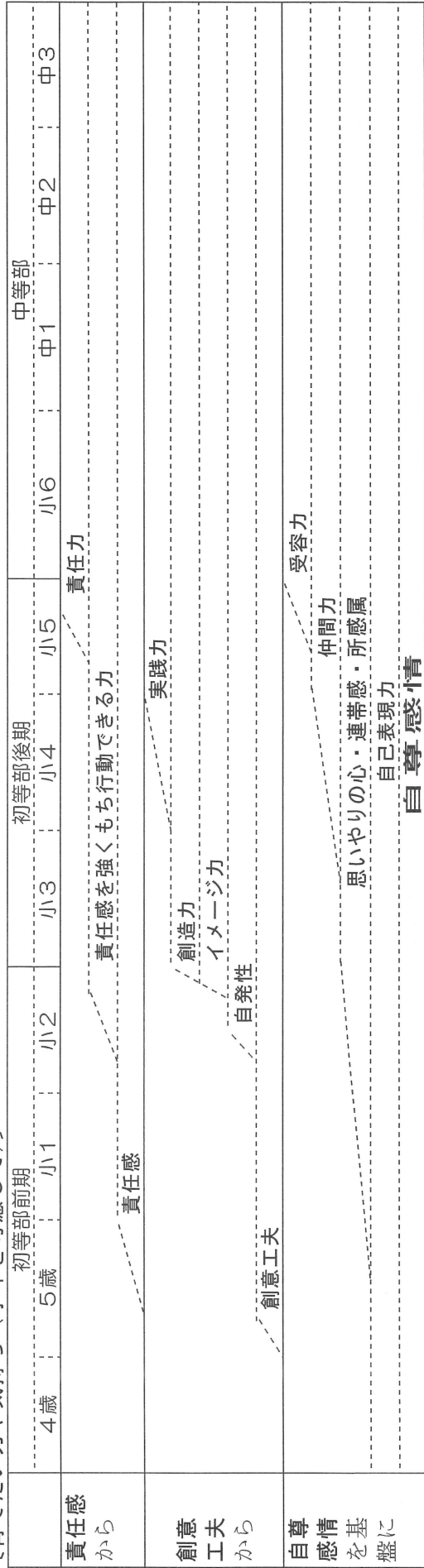
また、係活動で大切にしたい『力』を整理していくと、その『力』は係活動にとどまらず、170ページの表の下※1、※2、※3などの活動にも非常に関係が深いことが見えてきた。初等部後期には、学級を解体し学年全体で活動することも多くなる。学級の係とは別に学年の仲間とのかかわりが大切になってくる。その中では、私たちが係活動で整理したことが、より必要感をもって重視しなければならないのではないのかということが見えてきた。中等部ともなれば、所属する学校園全体や附属学校園全体をみた活動も行われるのでなおさらである。さらに、全校や全園で行われている体育会やそれぞれの学校園で行われている行事などにも、ここで整理したことは深く結びついているのではないのかというところまで見えてきている。今後、特別活動における育てたい力と仲間とのかかわりについて、広がりをもたせて明らかにしていけたらと考える。

(文責 仙田 淳一)

〔学級活動における係活動に視点をあて、各ブロックで育てたい力〕

	初等部前期	初等部後期	中等部
自尊心を基盤に	「やってみよう」という主体的な気持ちを尊重し、一生懸命取り組めるよう教師が支援をすることで、子どもの自己表現力を高める。また、その中で達成感を味わわせることで、できることが増える。高まりにつながり、基礎的な感覚を養うことになる。	継続的に自尊心を育てることで、子どもたちが他者とのつきあいに余裕がもたれ、視野を広げることができるようになる。思いやりの心が高まり、他者の気持ちに立った行動をとることができるようになる。すると、仲間という意識が育ち、ともに活動することに喜びを感じる。	思いやりの心の充実、他者の考えやよさに気づき、その考えを認めることができる受容力を高める。これは、子どもの思考面や精神面を柔軟にし深まりや広がりをもたらす。一方、行動面においては、他者と一緒に活動することに喜びを感じる。このように仲間力が高まり、よりよい集団を形成することのできる仲間力の中での一人ひとりが所属感や連帯感を十分に感じ、それがさらによりよい集団へと高める相乗効果を生む。
創意工夫から	子どもたちが上記の感情や力の高まりを十分に感じてくると、気持ちに余裕が現れ、創意工夫する姿が生まれる。	創意工夫し、主体的に活動することの喜びを味わうことで、自分たち集団を充実させていこうとする自発性が高まる。イメージしながら創造したことを実践してみることが企画力もさらに高まっていく。	集団も様々に広がり、どのような集団に向けて、何をすべきかがより見えにくくなる。それぞれの集団に適した活動を考えることが必要となり、その中でイメージを広げより深くそして柔軟に対応できる創造力を発揮しなければならぬ。そして、それを実践することで、自分たちの取り組みを有意義なものとしていく。
責任感から	徐々に集団での生活を意識しだし、自分の役割の大切さを感じる。そして、その役割に対して責任感も少しずつ生まれてくる。	自分がしなければみんなが困ることや、他者がしてくれたいことなどでみんなが助かることを体験し、責任感を強くもち行動できる力が高まる。	自分がしなければならぬことをやり遂げる経験を積み重ね、そのやりがいと喜びを味わうことで、責任力の高まりへとつながる。

〔育てたい力や気持ち（学年を考慮して）〕



〔具体的な「係」とそれにおける仲間との関わり方（学年を考慮して）〕

	初等部前期			初等部後期			中等部				
	4歳	5歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
学級の係	「やってみたい」と思っ てする係 「いただきます」係 うさぎ・いも当番										
	一人1役			2～3人組で協力して			2～3人組で協力して			生活班で協力して	
学級を超えた係等	学級をよりよくするための係										
	※1 学年をよりよくするための活動の中の係			2～3人組で協力して			生活班の中から行事等ごとに			※2 学校をよりよくするための活動	
※3 附属学校園や小学校や中学校全体で取り組む活動の中の係											

(注 本表の縦の実線や点線の区切りは、おおよそのものであり、係や活動がその線で明確に分かれてはいない。)

- ※1 小4『林間学校』、小5『臨海学校』、小6『修学旅行』、中3『修学旅行』、中3『修学旅行』という学校行事を中心とした活動の中の係活動を示す。例えば、安全係や食事係、レクリエーション係などがそれぞれにあたる。
- ※2 小5、小6での児童会活動『執行部・各委員会』、中1～中3での生徒会活動『執行委員会・各委員会』の活動を示す。例えば、体育委員会や美化委員会などがそれぞれにあたる。
- ※3 小学校では全校活動『子どものお店』『夏祭り』『お別れ集会』、学校行事『体育会』『音楽会』を、中学校では『運動会』『音楽会』を、附属学校園では『合同集会』を企画・運営する係を示す。例えば、執行部や学年リーダー会がそれぞれにあたる。